

## 新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等
地域活性化	市町村合併の進展や高速交通網の整備により広域圏間の人やモノの流れなどが一層進み、広域圏の考え方は、現在の10広域圏から、従来から広く県民にも定着している「4信」を全面に打ち出し、県の組織の再編なども見据えながら施策を展開していくことが適当と考えられる。
地域活性化	中核市を政令指定都市にするか、新しい経済の中心になる都市を作るため、市町村と協力して魅力的な都市計画を立てる。
地域活性化	県は市町村の政策を最大限にバックアップするとともに、各市町村が長野県として一体の意識を持っていくことが重要
地域活性化	市町村の取組でうまくいっているものを県で吸い上げ、各市町村へ還元して、県全体が一部のいいとこどりをする。
地域活性化	各市町村が独自性を強く発揮できる権限移譲
地域活性化	各市町村のまちづくりの集合体として県づくりを行うことが重要
地域活性化	市町村の望ましい規模の観点から、合併促進の再検討
地域活性化	市町村が主体に地域課題に取り組むことができるよう、地域の自主性に配慮しつつ、行政基盤の強化に向けた取組の支援を拡大する。
地域活性化	市町村が最低限自立する力を身に付けるまで援助を行うことで、長期的には足腰のしっかりした自主的・主体的な地域づくりが達成される。
地域活性化	県が主催し、市町村向けの講演・研修を積極的に行うべき。
地域活性化	地域持続性を可能にする手法としての住民主体、地域のネットワークで取り組む「観光まちづくり」「エコツーリズム」「6次産業化」の重要性
地域活性化	長野県は地域特性が多様で、昔からのつながりが残っている地域が多いため、市町村を中心にそれらを活かした地域づくりをすることが重要
地域活性化	各市町村がそれぞれ長野を代表する地として他都道府県に認知されるようになるため、その地の特性を活かした発展が欠かせない。
地域活性化	中核的な市は工業の発展と更なる都市化、周辺の市町村は自然を最大限活かし農林業等の発展を進め、地域ごとの特色が色濃く出ている個性的な県にしたい。
地域活性化	県外へ行った人々が「長野県に戻って就職したい、暮らしたい」と思えるように、より地域を活性化する必要がある。
地域活性化	地域の活性化に向けて、都会とは違うその土地の個性を引き出すことが重要。そうしたものの発見には、故郷に愛着を持つ地元の人だけではなく、外から来る人の視点も重要
地域活性化	地域コミュニティの構築はこれからの長野県において大きな課題であり、力を入れて取り組まなければならない問題
地域活性化	市町村の魅力を見つめ直し、地域コミュニティを充実させるため、県のリードやバックアップが必要
地域活性化	市町村内での姉妹交流関係を作り、何年かごとに組み替えをして県全土を知る機会を設ける。県民が自分の知る地域以外の地域をより知り、県全体のことを好きだと言ってもらえるよう、県内交流の盛んな県になることを望む。
地域活性化	交通網が発達し、地域間の交流が活性化する基盤ができつつある。これを機に、地域間のつながりを強いものとし、県の更なる発展を目指したい。
地域活性化	行政だけでなく、地元の人たちと協力して地域を活性化する必要がある。
地域活性化	コミュニティレベルでの地域活性化活動に協働で取り組むことは、今後、行政の役割として必要不可欠
地域活性化	地域の独自性や魅力を磨くために、コミュニティビジネスを強く推進する。企業・行政はサポートに徹し、住民が主役として積極的にまちづくりに参加し、住民起点の協働によって地域の魅力を高める必要がある。
地域活性化	地域のことに目を向け、近接に住む住民とも密接に関係を持って、地域全体が支え合って生活をしていける長野県にしたい。
地域活性化	地域でいきいきと楽しく生活できるという社会的な健康は重要。数値的な健康にのみ注意していても、日々の暮らしの中で地域とのつながりがなければ、いずれ健康を損なうことになる。

## 新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等
地域活性化	若い世代が一方的に高齢者を支えるのではなく、両世代が助け合いながら暮らしていけるような長野県になってほしい。
地域活性化	どの地域も「長野県」というひとつのまとまりとして県全体の活性化を目指していけると良い。
地域活性化	北信から南信まで、ひとつになって何かに取り組む。
地域活性化	交通の利便性向上や文化の交流により、東北中南信の連携が進み、それぞれの文化を守りながらより発展する。
地域活性化	長野県全域が同じように発展していけるよう、それぞれの地域特性を生かした政策を行って欲しい。
NPO・ボランティア	多様な価値観や新たなニーズに合わせてNPO・社会的企業がより活躍しやすい風土にすることで、従来のライフスタイルにとらわれず、これまでとは違う働き方の選択肢が増え、地域に刺激を与える。
NPO・ボランティア	市民活動の現場では、コーディネート不在を指摘する声を聞く。個人のボランティアに任せきりにならないよう、横のつながりを支援するスキル・モチベーションを持った人を雇用につなげることが必要
NPO・ボランティア	行政が地域の中で人と人とをつなぐ役割を果たすことができれば、「県民参加と協働の推進」の第一歩になる。
男女共同参画	女性の積極的な登用により地域活動を活性化するためには、民間組織と連携し、男女の能力を平等に評価する仕組みを作る必要がある。
男女共同参画	女性の社会進出を進めるために、男女の意識を変えることと、子どもを学校など社会で育てる仕組みが必要
男女共同参画	男の人の家事・育児参加を促進し、男女平等の社会を目指す。
男女共同参画	県・市町村職員や連携企業に積極的に男性の家庭参加を呼びかけて実践し、男性育児参加先進県として、日本の子育てを牽引する流れを作る。
国際化	「グローバルに考えローカルに行動せよ」自治体レベルの国際連携
国際化	あらゆる分野で海外交流や外国人の受入を進め、身近に外国語を話す人を増やして、国際感覚を身につけられるようにする。
国際化	これまで以上に姉妹都市・友好関係都市を増やし、将来を担う子どもたちに異文化交流を超えた更なる交流の機会を提供することが必要
国際化	地域の資源・特色といった地域力を生かした国際協力事業は、自然・産業といった資源を諸外国にアピールする効果も期待できる。
国際化	国際協力事業の情報を一括管理・運用する中核的組織の役割を県が担いながら、多様なアクターと協働することが必要
農山村	費用便益のみにとらわれない、山間地(へき地)でも故郷に安心して暮らせるための支援
農山村	山間部における過疎化の問題について、県として広域的な対策を講じ、長野県全体が活性化することを望む。
農山村	限界集落などは、現在住んでいる住民の通院等の補助に努め、最後はその集落をなくす覚悟も必要
農山村	山間に住んでいる人や高齢者のために、交通事故等の危険回避のために道路改良率を向上させるべき。
農山村	美しい農村づくり
農山村	一番大切なことは、長野県で暮らしたいと思ってもらえるような魅力を伝えること。そのためには、県外で生活している人の意見を知り、あらゆる手を考えて改善に取り組むことが必要
農山村	「長野には長野にしかできない働き方、遊び方がある」ことを強調して伝える。
農山村	自然の美しさや人間の温かさをアピールし、若い人達が「ここでずっと暮らしていきたい」と思えるような努力をする。

## 新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等
農山村	経済活動を行いながら自然の安らぎを享受できるという魅力を強力に発信し、都市部の人にも知ってもらうことで、観光や移住が増加するのではないかな。
農山村	都会からの移住・交流者にとって、長野県の暮らし(信州スタイル)が理想的なライフスタイルになっていることが望ましい。
農山村	移住・交流については、奇をてらった一過性のアピールではなく、移住・交流センターでの1対1での対応など、地道な活動を継続することが必要
農山村	Iターン・Jターンといった地元以外からの就職支援や移住の呼びかけは、今後拡大できる分野。他県との競合を想定し、魅力を十分に伝えられるよう、自治体・民間を問わず協議が必要
農山村	移住を進めるためには、気候・自然等だけでなく、医療が充実している、税金が安くなる、土地や住宅が安く手に入る等の魅力が必要
農山村	多様なニーズがある中で、本県はどの層にコミットするのかターゲットを明確にした上で、移住希望者からのヒアリングを行う必要がある。
農山村	市町村・地域別に多様な特色があるため、他地域との差別化を図り、県内外の観光者・移住者のニーズやターゲットに合わせたプロモーションを行う。
農山村	東信(上田・佐久・軽井沢等)ならば東京は新幹線の通勤圏内であり、南信ならば中京圏が近いこと、生活・仕事との兼ね合いを加味したアピールを行う必要がある。
農山村	8県に隣接するという立地条件の良さ・交通の便を考え、ベッドタウンとして他県にさらにPRし、他県からの移住者を増やす。
農山村	県内経済の発展と安定のために、定住人口・交流人口の増加が必要。特に定住人口に関しては、転出の多い10～20代の若者を県内にとどめることや、県外から積極的に若者を呼び込むことが重要
農山村	退職後のIターンを促進する。
農山村	長野県で第二の人生を始める人を、温かく迎え入れられるようになると良い。
農山村	地元の若者や移住してきた若者などが気軽に集えるコミュニティを作って支援し、悩み相談や情報共有により、移住者が安心して生活できる体制を整える。
農山村	北陸新幹線やリニア中央新幹線により地域の魅力を高め、県外から県内への人の動きを作り出す可能性を長野県は十分に持っている。
農山村	県の移住・交流センターの対象は第二の人生を田舎で歩もうとする50～60代の人という雰囲気があり、若者にはとっつきにくい印象。もっとポップで若者が惹かれるようなチラシを作り、若者が興味を持つような説明会を実施すべき。
農山村	県の移住・交流センターに、若者、特にこれから就職や人生設計について考える学生に近い目線の相談員を置く。
農山村	先祖代々の土地を地主が提供しやすいように、公的機関が空家+遊休農地を仲介・斡旋する。長期的には、そのノウハウが産業としての農業につながる。
農山村	農地や住居の貸付をして、県外の農業従事希望者の受入れを促進する。
農山村	都市住民は、農業や自然とのふれあいを求めている。農産物に興味がある人には県の自然を、観光に訪れた人には県の農産物をPRすることで、農業や観光産業にさらに顧客を呼び込む。
農山村	中山間地への観光の呼び込みによる交流の機会作りや地域活性化を図る。
農山村	グリーンツーリズムにより、遠くの消費者と生産者が直接会って話す機会は貴重である。直接会うことで生産者の顔が見え、農作物に対するこだわりも伝わり、農産物を買ってくれる人が増えるのではないかな。
農山村	グリーンツーリズムにより、遠くの消費者と生産者が直接会って話す機会は貴重である。直接会うことで生産者の顔が見え、農作物に対するこだわりも伝わり、農産物を買ってくれる人が増えるのではないかな。
農山村	農林業等の体験に力を入れ、都会に住む方々や外国人の方々に長野に住んでみたいと思ってもらう。
農山村	過疎化が進んでいる地域に学校をつくり、高齢者の方々しか住んでいない家にホームステイして、そこから通えるようにする。
農山村	間伐や農業と婚活を一緒に行う。

## 新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等
都市環境・住環境	高齢化社会に対応したコンパクトシティの推進。公共交通や自転車利用の推進
都市環境・住環境	防犯の面で、街灯があり夜道が明るいといい。
都市環境・住環境	自然や景観を守りつつも、大型商業施設や娯楽施設が充実し、不便を感じず、ずっと住みたいような長野県になれば良い。
都市環境・住環境	豊富な自然を活かした地域と、電車やバスなどの公共交通が発達した都会のような地域を両立させる。
都市環境・住環境	道路を広げたり高速道路を建設する際は、長野県の良さの1つである豊かな自然を壊さないようにしたい。
都市環境・住環境	住む人にとって便利な街づくりを進めて欲しい。長野市、松本市以外の地域も街開発してもらいたい。
都市環境・住環境	高齢化社会が効率的に機能するためには、地域がコンパクトにまとまり、公共交通が整備され、アクセスしやすいまちづくりが必要。その際は、個々の地域の活動に県行政も参加・協働することが必要
都市環境・住環境	主要駅付近は、商業施設がもっとあって活気に溢れて欲しい。
都市環境・住環境	北信地域の観光拠点となるような、飯山駅周辺の整備が必要
都市環境・住環境	もっと公共の交通機関を使った移動がしやすくなるよう、駅前が活気のある街づくりをして欲しい。
都市環境・住環境	市街地では、犯罪が起こりやすい死角を減らすような建築・区画整理を積極的に進めるべき。
都市環境・住環境	安全に遊べる遊具を設置し、老若男女誰でも楽しめる公園を作るべき。災害時の避難場所になることを考慮した整備も必要
高速交通ネットワーク	リニアルートによる飯田への駅設置を見越し経済活動を促進するため、南信に開発局(推進室)を設置
高速交通ネットワーク	リニア駅及び東海道新幹線駅に接続するため長野駅から下伊那まで県縦断新幹線の整備
高速交通ネットワーク	県内の交通機関について、北陸新幹線延伸等の大きな動きをチャンスと捉え、地域の持つ魅力を最大限にアピールできるよう、県全体で協力する。
高速交通ネットワーク	通学者や観光客を増やすため、長野ー東京間の新幹線運賃を安くするよう働きかける。
高速交通ネットワーク	リニア開通駅を中心に、事前にその周囲への公共インフラをもっと充実させておくべき。
高速交通ネットワーク	中央道から太平洋側に最短で抜ける高速道の整備
高速交通ネットワーク	長野県は産業の中で製造業が大きな割合を占めており、製品の輸送手段として、高速道路の整備が必要。また、高速道路が整備されれば、観光事業の促進が図られる。
高速交通ネットワーク	車社会である長野県を活性化するには、道路の整備が不可欠。新幹線・高速道路はもとより、高規格道路の整備が必要
高速交通ネットワーク	FDAによる海外直行チャーター便の実現と中型機による就航のため、滑走路を2,500mに延長
高速交通ネットワーク	高校生や中学生に修学旅行や職場見学で信州まつもと空港利用の経験をしてもらい、将来の利用者増加を図る。
高速交通ネットワーク	松本空港からの発着便が少なく、不便を感じる。
高速交通ネットワーク	海外観光客の集客には、松本空港の活用を進めるべき。短距離の定期国際便乗り入れが実現すれば、長野県観光も海外の人々からより身近になる。
道路ネットワーク	内需拡大を図る上で、交通の便の良さは物流・観光において重要。予測されている東海地震に備え、長野県と静岡県、愛知県をつなぐ交通網を整備することは、長野県の役目

## 新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等
道路ネットワーク	製造業の経営と製品の流通は切り離せないため、流通の便がよくなるネットワークが必要。長野県の場合、物流が良くなれば人の流れも良くなる。
道路ネットワーク	人・モノは交通網がなければ集まらないため、交通網の整備が最優先
道路ネットワーク	隣接県につながる道路の整備を進める。観光客等を増やすだけでなく、災害時の救援用道路として役に立つ。
道路ネットワーク	道路や都市開発などは、現在あるもののメンテナンスに人や物を集中させ、新たなものは必要性をよく検証して欲しい。
道路ネットワーク	道路＋公共交通機関が整備されなければ、郊外・山村の過疎地で暮らす若者は便利さを求めて都市部や県外へ流出してしまい、高齢者は生活コストがかかり、ますます県民が暮らしにくくなってしまう。
道路ネットワーク	中京・北陸地域と部分的につながっても、県内間の交通の便が良くなければその利を活かしきれないため、企業・市町村・国と協調して県内交通網の見直しを進めることが必要
道路ネットワーク	佐久平－諏訪盆地を結ぶ道路ネットワークが必要
道路ネットワーク	東信から南信への交通の便が悪い。交通の便が良くなれば人や物も行き交い、地域格差も少なくなる。
道路ネットワーク	長野県の道路網がどのようになることを目指しているのか知りたい。
道路ネットワーク	県内の道路改良率は他県に比べて低く、県民から拡幅等の要望も見受けられる。県民や観光客が快適性を実感できる道路整備が必要
道路ネットワーク	長野県では自動車が必要不可欠であり、走行しやすい道路の整備を優先して行う。特に、高齢者が多い地区や旅行者の行き来が多い道路は拡幅や道路の追加等を行う。
道路ネットワーク	産業が盛んになるのは良いが、住む人とのバランスを考慮した道作りもしっかり考えた方が良い。
道路ネットワーク	長野県では自動車が必要不可欠であり、走行しやすい道路の整備を優先して行う。特に、高齢者が多い地区や旅行者の行き来が多い道路は拡幅や道路の追加等を行う。
道路ネットワーク	長野県では自動車が必要不可欠であり、特に、高齢者が多い地区や旅行者の行き来が多い道路を走行しやすくするため、優先的な予算配当が必要
道路ネットワーク	自転車通勤を推奨したり道路の整備を行って自転車利用を促進し、温暖化を防ぐ。
道路ネットワーク	自転車で走りやすい道路を多く作り、自転車を利用するのが当たり前の環境を整えば、県民も楽しみながら抵抗なく環境問題に取り組める。
道路ネットワーク	交通量の多い道路では4車線道路、比較的交通量の少ない道路でも2車線道路と歩道を整備し、歩行者と自動車をできるだけ分離すれば、どちらも安全に通行できる。特に、歩行者が多くなる学校や観光地の近くでは、広い歩道の整備が必要
公共交通ネットワーク	長野市中心に地下鉄網の整備
公共交通ネットワーク	しなの鉄道による屋代線の運営・長野駅から松代までの鉄道(地下鉄)の整備
公共交通ネットワーク	人と物流が活発化する公共交通の整備
公共交通ネットワーク	道路の混雑を防ぎ、不要な事故を減少させるためにも、公共交通機関を整えて県民に積極的に利用してもらうようにする。
公共交通ネットワーク	広い県なので交通弱者が出やすいため、県内の交通状況を見直し、移動しやすい環境を作ることが重要
公共交通ネットワーク	駅からの交通アクセスを増やすことで県外から来た人も気軽に移動でき、高齢者も県内の人も移動に困らなくなる。
公共交通ネットワーク	長野県と近隣県が気軽に行き来できるようにする。
公共交通ネットワーク	高山村～須坂市間の通学路線バスの増便

## 新たな総合5か年計画意見・提言一覧表

施策分野	意見・提言等
公共交通ネットワーク	鉄道網を発展させ自家用車の排気ガスを減らしていく。
公共交通ネットワーク	公共交通機関がもっと発達してくれば、マイカー通勤も減る。
公共交通ネットワーク	自家用車を使わず、バスをみんなで使用し、CO <sub>2</sub> を削減する。
公共交通ネットワーク	自動車に依存しない県になって欲しい。
公共交通ネットワーク	全国に誇れる自然豊かな観光資源があるので、交通機関を整備し、観光客や移住者の増加を促す。
公共交通ネットワーク	他府県の人が2泊3日で長野県一周旅行等がしやすいように、公共交通網の整備が必要
公共交通ネットワーク	県外から観光客を誘致する際に地域間の距離が遠いので、交通の便をより良くすることが重要
公共交通ネットワーク	公共交通機関の充実や、中山間地域での農地整備等を考えるべき。
公共交通ネットワーク	車が運転できない高齢者を支援するため、公共交通ネットワークの確保・拡充に取り組むべき。
公共交通ネットワーク	南信地域の公共交通ネットワークの確保
公共交通ネットワーク	長所である長寿を今後も活かしていくため、高齢者に優しい交通環境作りをする。
公共交通ネットワーク	人口減少に悩む地域でも、住民の意見を聞きながら鉄道に限らない効率的な交通網を検討し、企業と協働して交通手段を存続させる。
公共交通ネットワーク	長野県は山地が多く、交通が不便な場所が多くあるので、地元のタクシー会社などと協力し、乗り合いタクシーなどを整備するべき。
公共交通ネットワーク	ハイブリッド車両の導入
公共交通ネットワーク	自然をメインとした長野県をアピールするため、バスをエコカーに、鉄道をハイブリッド車両にすれば、エコだけでなく話題性も獲得できる。
情報化	デジタルアーカイブの手法活用により、伝統の継承、郷土意識の定着、観光振興を実現し、もって地域振興を図る。
情報化	インターネットを用いた新しい情報発信システムを開設し、南北に長い長野県の距離の問題を解決する。
情報化	市町村等と連携し、図書館・公民館等にパソコンを設置して講習会を実施するなど、手軽にネットショップを利用できる環境を提供し、ネットショップの普及に努めることが必要
情報化	インターネットが高齢者の間に広まれば、家の中での買物や、病院・市役所との定期的な情報交換が可能になり、災害等の緊急時には状態把握により被害を最小限に抑えられる。そのためには、高齢者が使いやすいシステム開発や使用を促進する講習会が必要